



越前松岡藩城下町 (松岡十二曲り)

1645～1721年まで藩政が敷かれた町として、いまでも通りを歩くと江戸時代の名残を感じられます。敵の侵入を防ぐために何度も直角に折れる道「松岡十二曲り」沿いには、松尾芭蕉が立ち寄った天龍寺、全国的に有名な酒蔵など、歴史文化資源も多くあります。(いつでも散策可能)



曹洞宗清涼山天龍寺

曹洞宗大本山永平寺の末寺で、徳川家康のひ孫越前松岡藩初代藩主松平昌勝公の命により建立されました。境内には芭蕉句碑と石像が建立されています。土曜参禅会や長期短期の参禅滞在も可能。(常時坐禅受付可)

永平寺町松岡春日1-64



吉野ヶ岳 (蔵王山)

標高547mの山で、泰澄大師が開いたとされる越前五山(越知山・白山・文殊山・吉野ヶ岳・日野山)の一つ。山頂付近には蔵王権現を祀った神社があることから蔵王山ともいわれています。



松岡古墳群

弥生から古墳時代後期までおよそ500年間にわたっての古墳約50基が広がっており、うち4基の前方後円墳は国指定史跡に指定されています。(いつでも散策可能)



わくわくRiverCAN (九頭竜川流域防災センター)

鳴鹿大堰は2003年に完成した九頭竜川の治水強化のための可動堰です。わくわくRiverCANは鳴鹿大堰に接し、九頭竜川の治水・利水・河川環境の保全に関する様々な資料を展示し、学習の場とした施設です。

天然記念物「アラレガコの生息地」の普及、啓発として生きたアラレガコの展示も行っています。



四季の森複合施設

永平寺町四季の森複合施設は「多業種交流センター」と「旧傘松閣」を併設し、様々な用途にご利用いただける施設です。「多業種交流センター」はテレワークやコワーキングスペースなどがあります。

旧傘松閣は、大本山永平寺傘松閣の大広間(160畳)・格天井・花鳥絵を忠実に再現。回廊には永平寺町ゆかりの貴重な美術品や文化財を展示しています。

永平寺町山9-1-2



旧永平寺口駅舎

1913年に京都電灯越前電気鉄道の永平寺駅として開業。「東古市駅」として親しまれました。開業時のもので、2014年に新駅舎完成後、地域交流館に生まれ変わりました。他に松岡駅、志比堺駅と合わせて4ヶ所が国登録文化財になっています。



旧京都電燈古市変電所 (レンガ倉庫)

えちぜん鉄道永平寺口駅構内に残る京都電燈時代のレンガ造りの旧古市変電所です。(外観のみ見学可)



城山 (波多野城跡)

標高473.8m。登山道は城山会(じょうやまかい)有志の力で10年かけて完成しました。1996年2月に町の史跡に指定。2001年4月に福井県史跡の指定を受けました。登りやすい山城です。



京善地区 (伝統的民家群保存 活用推進地区)

えちぜん鉄道永平寺口駅から大本山永平寺に至る道中のほぼ中間の地形的に平地が最も狭いところにある集落で、農家型民家や土蔵が多く残り、集落の中央を流れる永平寺川と背後に広がる山々と合わせて昔と変わらない農村集落景観が広がっています。町内には京善地区のほか、8つの地区が推進地区として指定されています。



曹洞宗老梅山吉峰寺

道元禅師が京都から越前に移り、最初に修行の道場とした寺。道元禅師が坐禅したといわれる「御開山坐禅石」や典座・徹通和尚が粥を運ぶために通った「徹通坂」などがあります。

永平寺町吉峰35-13-2



曹洞宗大本山永平寺

1244年に道元禅師によって開かれた禅の道場です。深山幽谷の境内には、70あまりもの殿堂楼閣が建ち並びます。2019年には、法堂や仏殿などの木造建築群19棟が国の重要文化財に指定されました。(参拝時間8:30～16:30) 永平寺町志比5-15



赤井家住宅

赤井家先祖は戦国時代丹波の高見城の城主。福井藩・松平忠直に任え、大阪冬・夏の陣の功績を認められ、1767年、福井藩から「高麗門」と言われる、馬に乗ったまま通れる馬上門が許可されました。高麗門は町指定文化財に指定されており、住宅主屋など4棟は2024年に国の登録有形文化財に登録されました。(いつでも散策可能。※門の中は許可が必要)



弁財天白龍王大権現

商売の神様・弁財天を祀り、商売繁盛のご利益があると全国から多くの参拝客が訪れます。境内にはご神体の白蛇が棲んでいると言われています。(いつでも散策可能)

永平寺町竹原31-9



華蔵閣大谷山興行寺

本願寺第5世綽如上人の三男、周覚上人を開基とし、1406年に創立。

「花の寺」として「春のしだれ桜」「秋のイチョウ」は有名で、蓮如上人の足跡などを展示したミュージアム「華の蔵」も境内にあります。

永平寺町藤巻34-2



大佛寺山祖跡巡拝登山

標高807m。『吉峰寺』から大佛寺山を経て『大本山永平寺』に至る稜線沿いの登山道は、道元禅師が通われた道ということから「祖跡コース」と呼ばれ親しまれています。



